

## 熱中・感動・夢づくり教育について(長岡市)

### 1 長岡市の概要

- (1) 人口 281,436人(男:137,277人 女:144,159人)
- (2) 世帯数 103,551世帯
- (3) 面積 890.91km<sup>2</sup>
- (4) 予算額 1,458億2,800万円(平成25年度一般会計当初予算)
- (5) 議員定数 38人(現議員数37人)

### 2 施策の概要

#### (1) 施策の経緯・目的について

事業開始当時の平成17年度は学ぶ意欲の低下、学力等の二極化傾向、コミュニケーション力等の低下、地域・家庭の教育機能の低下など、子どもたちの現状と社会的背景があった。

そこで、子どものやる気や学ぶ意欲を引き出す方策として、

どの子にも分かる授業の実現

地域の力、市民の力を生かした教育の推進

熱中・感動体験の充実

以上を3つの柱とし、豊かな体験と確かな学びで夢を描く力と生き抜く自信をはぐくむことを目的としている。

平成25年度予算は68事業、3億4千万円である。本事業に関連する部署は全14課あり、市を挙げた取り組みを実施している。

#### (2) どの子にもわかる授業の実現

教育環境を充実する事業

ア アシスタントティーチャー(教育補助員)44人の配置。

市単独配置校の実態に応じて、授業や生徒指導、学校行事の補助業務を行うことにより、チームティーチングや少人数指導など、子どもたちへのきめ細かい指導、支援の充実を図る。

イ ふれあいスポーツアシスタント事業

小学校の体育授業に(公財)長岡市スポーツ協会の指導員をアシスタント指導者として派遣し、小学校の体育授業の活性化を図る。

ウ 学校・子どもかがやき塾

1校あたり約40万円を配当し、学校の主体性を重視し、校長の裁量権の拡大による特色ある教育活動づくりを目的としている。

エ 夢企画事業

学校が企画する夢ある事業を募集し、選考のうえ学校に20万から30万円程度加算して配当する。今年度は小学校116校、中学校9校の「夢企画」を採択している。

教員の資質・指導力の向上を図る事業

ア 英語指導室の設置

A L T (外国語指導助手)を12人、J T L (英語指導員)を9人配置し、A L TとJ T Lがペアで小・中学校の授業に入ることにより、英語授業、外国語授業の活性化を図る。

イ 「教員サポート練成塾」

教師の資質や指導力の向上のため、専門の嘱託指導主事6人が1年間指導し、人間性豊かな教員を育てる。「教員サポート練成塾」では、指導技術だけでなく、総合的な人間力を高める研修を実施している。

(3) 地域力・市民力を生かした教育の推進

地域人材を教育に活用する事業

ア ようこそ「まちの先生」事業

地域にいるいろいろな技を持つ“達人”に学習活動に協力してもらう事業で、自然科学、スポーツ等8分野約440人が登録しており、年間延べ約2,000人の「まちの先生」が学校で活躍している。

NPO等の活動を育成・支援する事業

ア 「地域・子ども元気塾事業」

地域の団体、NPO等が子どものために行う活動に対し、助成・支援をすることによって、子どもが地域の大人や自然とかわり成長することや、地域のつながりを深め、地域の教育力の向上などを目的としている。

子育て・家庭教育支援事業

ア 家庭で子どもに手伝いをさせよう運動

お手伝いの大切さを伝え、親子でともに活動することでかわりを深めたり、自己有用感を育てたりする活動を、学校、地域、市P連等と協力しながら展開している。長岡市では平成19年度より、0歳から思春期に至るまでの子育てや教育に関する業務を教育委員会に一元化している。

(4) 熱中・感動体験の充実

個性・能力を伸ばす事業

ア ジョイフル里山木工塾

間伐材を使った木工作品作りを通し、子どもに物を作ることの楽しみを体験させ、創意工夫や物づくりへの意欲を高める。

イ ロボコン教室

小学生に対して、子どもたちの科学への興味や創造性を養うことを目的として、ロボット工作教室を継続的（約3か月間）に開催し、9月にロボコン大会を開催。

感性・情操を豊かにする事業

ア 夢づくりコンサート

長岡市芸術文化振興財団の音楽アドバイザーである船橋洋介氏のプロデュースによる小学校5年生全員を対象にしたクラシックコンサートを実施。

本物に触れ、感動する体験を通して、子どもの感性や情操を育むことが目的である。

地域・自然を愛する心をはぐくむ事業

ア ながおか学作成事業

小学5年生に長岡についてこれだけは知っておいてほしい内容について紹介する冊子「郷土長岡を語る『ながおか学』」を配布し、授業や家庭での語り、見学・訪問などでの活用を促す。

社会の一員としての意識を高める事業

ア 「JHSながおか夢ラジオ」

希望する市内中学校及び総合支援学校が、総合的な学習の時間の成果を材料としてFMラジオ番組を作成する。1校につき10分の持ち時間。市内公共施設で公開収録を行う。生徒の表現力を発揮する場として、また学校に対する誇りがもてる場になるようにする。

イ ながおか未来塾

市内中学生対象での宿泊研修を通して、生涯をかけて夢を実現するための「志」を抱かせる。行政、企業経営者及び著名な学識経験者、文化人等の各界リーダーのもとで、長岡の次代を担うリーダーとしての資質や能力を育む。

( 5 ) 今後の取り組みについて

平成17年度の事業開始から9年目を向かえた今年度、全事業の見直しを進めていく。11年目の平成27年度から新たな一步を踏み出せるよう、平成25年度に事業全体の評価、今後のあり方の検討を行い、平成26年度に各事業の検討を実施する予定である。

### 3 委員・会派の所感

本事業は、未来を担う子どもたちに夢を描く力と生き抜く自信をはぐくむ施策

として『米百俵の精神』により平成17年度より始められ、9年目となる。本事業の特色は、教育委員会だけでなく、市の14課(国際交流・健康課・農政課・芸術文化課振興財団など)がスクラムを組み、子どもの教育に市を挙げて取り組んでいる点である。事業数は68事業にもおよび、内容も多岐にわたっている。

また、0歳から思春期に至るまでの子育て教育業務を平成19年度より教育委員会に一元化し、さまざまな熱中・感動体験を通して、子どもたちのやる気、輝く目を育てている。

長岡市の米百俵の心を受け継ぐ人づくりは長い歴史と美しい自然の中で養われた精神に、熱い息吹を吹き込んだ結果だと感じた。江戸川区でもできないことはないと感じた。

「どの子にもわかる授業の実現」について、長岡市では教育環境充実のため、人的・裁量予算などの支援がかなり厚く充てられていると感じた。このベースに「国興しは人づくりから」との“米百俵のまち長岡”の精神が感じられた。

もう一点は、子育て支援の部署についても教育委員会が所管をしており、幼児期の過ごし方について、幼稚園・保育園を含み幼児教育の重要性を行政が重視している姿勢が見て取れる。この点についても江戸川区においても今後参考としていくべきと感じた。

事業開始から10年目となる明年に向け「今後のあり方検討会」で各界の方からのヒアリングを始めたという事だが、そのまとめもぜひお聞きし参考としたい。

江戸川区においても米百俵の精神を引き継ぐ長岡市の多くの教育に関する取り組みの中で積極的に取り入れていくべき事業が多くあると感じた。また、0歳から思春期に至るまでの子育てや教育に関する業務を教育委員会に平成19年度から一元化していることは特筆すべき取り組みであった。

取り組みに当たって、まず、子どもたちの現状と社会的背景を分析し、意欲を引き出す3つの方策を示している。どの子にもわかる授業の実現、地域力・市民力を生かした教育、熱中・感動体験の充実、体験の68事業は魅力的で、学ぶことの多い内容であった。

とりわけ大切な施策だと注目したのは、わかる授業実現のため、教育環境の充実として、市単独でアシスタントティーチャーや英語の指導員の人的配置(直接雇用)である。また、使い道を限定しない約40万円の予算も配当。学校の自主性を大事にしていることがわかる。さらに、子育てを一貫して見ていくために組織を変え、母子保健・保育園・子育て支援を教育委員会に統一したこともおもいきったやり方である。

「熱中・感動・夢づくり教育」は今年で9年目となりまとめる時期に来ている。来年度、夢づくり推進会議をやって提言を作り事業見直しをしていくということ

であった。教育の充実のために、長岡市を挙げた取り組みをしていることがよくわかった。今後の取り組みも注目していきたい。

戊辰戦争後の長岡藩に、三根山藩からお見舞いに送られた百俵の米を、藩士に分配せずに売って、子どもたちの未来のために国漢学校を作る経費にした「米百俵の精神」が長岡市の教育の根幹にある。「国がおこるも、ほろびるのも、まちが栄えるのも、おとろえるのも、ことごとく人にある」という精神のもと、将来を担う子どもたちのために、優れた人材を育てることが大事と、人を育てることに重点をおいている。

どの子にも分かる授業の実現や、地域の力、市民の力を生かした教育の推進など、抱えている課題は、江戸川区とも共通のものである。長岡市では、教育環境の充実と教員の資質・指導力の向上を図ることを柱に、人の配置に重点をおいている。

教育環境の充実については、学校のニーズに応じて配置されるアシスタントティーチャー、チームティーチングなど、複数の指導者が関わることで、より多くの目で子どもたちを見ることができ、きめ細やかな支援をしている。配慮を要する子どもたちへもフレンドリールーム（不登校児のための保健室のような教室）や介助員・相談員などを手厚く配置している。

また、各校の主体性や、特色を打ち出すために「学校・子ども輝き塾事業」や「夢企画事業」など学校裁量で配当される予算で、学校のモチベーションを引き出している。

教員の資質・指導力向上のために、若手だけでなく、ベテランの先生方も含めての「教員サポート連成熟」など時間をかけた研修で、技術的なことだけでなく、人間性を磨く場も提供している。教員に自信をもってもらうためには必要な時間だと思う。

地域の人材を活用することは、江戸川区でもしているが、長岡市ではこれを、各校に任せるのではなく全市を挙げて取り組み、教育委員会だけでなく、国際交流課、健康課、農政課など所管をまたいで連携している。幼いころからの教育が重要だということで、子育て・家庭教育支援事業として、平成19年度から、0歳～思春期にいたるまでの子育て・教育に関する業務を教育委員会に一元化していることは、江戸川区でも一考に価する施策だと思った。

これらの事業を評価するために、行政だけでなく、学校関係者、保護者、地域の住民をメンバーにして評価会議を開き、今後のあり方を検討していることもたいへん参考になった。

\* 報告書の作成にあたっては、長岡市の資料を参考にしました。

## 学力向上の取り組みについて ( 福井県 )

### 1 福井県の概要

- ( 1 ) 人 口 7 9 5 , 4 3 7 人 ( 男 : 384,932 人 女 : 410,505 人 )
- ( 2 ) 世帯数 2 7 7 , 2 7 3 世帯
- ( 3 ) 面 積 4 , 1 8 9 k m<sup>2</sup>
- ( 4 ) 予算額 4 , 7 7 0 億 6 , 8 0 0 万円 ( 平成 2 5 年度一般会計当初予算 )
- ( 5 ) 議員定数 3 7 人 ( 現議員数 3 4 人 )

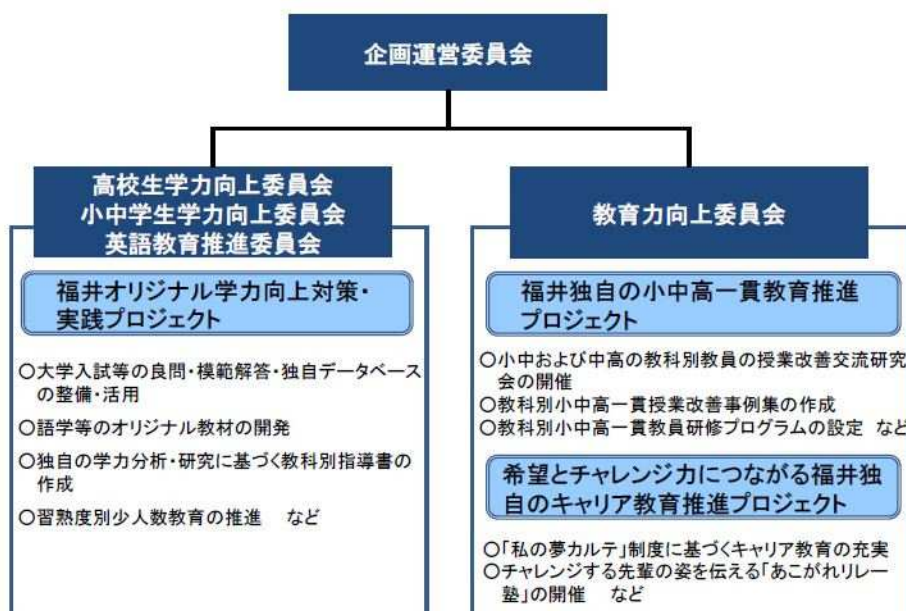
### 2 施策の概要

#### ( 1 ) 福井県学力向上センターの取り組み

福井型 1 8 年教育について

福井県では、全国トップクラスの小・中学校の学力を高等学校までつなぎ、幼児期から高等学校卒業までの接続を重視した「福井型 1 8 年教育」を具体化するため、平成 2 4 年 5 月に「福井県学力向上センター」を設置した。

#### 福井県学力向上センター



## 概要

- ア 小中高を通じた福井オリジナルの学力向上対策・実践を推進
  - a 大学入試等の良問・模範答案・独自データベースの整備・活用
  - b 語学等のオリジナル教材の開発
  - c 独自の学力分析・研究に基づく教科別指導書の作成
  - d 習熟度別少人数教育の推進 など
- イ 福井独自の小中高一貫教育システムの開発
  - a 小中および中高の教科別教員の授業改善交流研究会の開催
  - b 教科別小中高一貫授業改善事例集の作成
  - c 教科別小中高一貫教員研修プログラムの設定 など
- ウ 希望とチャレンジ力につながる福井独自のキャリア教育を推進
  - a 「私の夢カルテ」制度に基づくキャリア教育の充実
  - b チャレンジする先輩の姿を伝える「あこがれリレー塾」の開催 など

## ( 2 ) ふくいの教育について

福井県は、子どもたちの学力、体力ともに調査開始以来、全国トップクラスの好成績を収めており、教育における成果が表れている。

また、家庭・地域・学校等に受け継がれている良き伝統文化や安定した環境があり、共に働き・共に支え合う、人と人とのネットワークが強く残っていることが、福井の教育力を高める原動力になっている。

福井県では、行政や学校、家庭、地域がそれぞれの役割を担って、意欲やモラル、職業意識等も含めた子どもたちの「総合的な学力」を最大限に伸ばす「ていねいな教育・きたえる教育」を推進している。

## 3 委員・会派の所感

福井県は共働き率が全国 1 位、女性の就業率が全国 2 位、三世代同居率が全国 2 位と、同居の祖父母が基本的な生活習慣や孫の家庭学習の習慣を身につけさせるなど、幼児期からの教育環境がしっかりと根付いていると感じた。

また、昭和 26 年度より独自に学力調査を継続実施しており、子どもたちの苦手な分野などの課題を分析したうえで、課題克服教材集を作成し、学力の向上に取り組んでいる。

福井大学教職大学院と連携し、実践的な教員養成に取り組む等、教育機関と学校現場の密接な関連があって実施できる事業だと感じた。

学力が高いことが全てではないが、さまざまな努力をして江戸川区を愛するふるさと江戸川、わがまち江戸川の人づくりのために、福井県の政策を参考にしていきたい。

福井県では「福井型18年教育」として幼児期から高等学校卒業までの接続を重視している。教育委員会の義務教育課が子育て関連部署を所管している点は長岡市と同じで今後江戸川区の取り組みに参考としたい。

独自の少人数教育を推進しており、小学校低・中学年では社会性を養成するためにあえて多めにし、中学校は少人数としている点など、参考になる考え方であった。「算数web」「中学校英数学力向上事業」や「サイエンス教育」など理数系に力を入れていると感じた。

また、最高の教育環境は教師との言葉があるが、教員の資質向上への意識が高く、「学び続ける教員」を奨励している点や福井大学教職大学院との連携による研修などの取り組みが充実している。福井県では昭和26年から独自で学力調査を継続実施してきた。その意識の高さが伝統となっていると感じた。

全国学力調査の結果でも常に上位に位置する福井県の学力向上の取組みについて学んだ。福井県では子どもの学力を検証し、教師の指導改善、指導向上を図っている。教員研修のあり方として従来の一か所に集まって研修をするやり方ではなく、中核となるコア・ティーチャーを指名し、その教師を中心に校内で研修を行っている。また、県もそれをサポートしている。中学校の英数学力向上の取組みとして下位層の底上げを図るべく習熟度別少人数指導の導入なども行われている。算数webシステムや教育情報フォーラムなどICTを活用した取組みも行われている。

江戸川区においても教員の行内研修のあり方やICTを活用の面そして習熟別授業などで学ぶべき点や取り入れられることが数多くあると感じた。

福井県は独自の少人数教育を10年前から進めている。

区分		内容
小学校	1・2年	35人学級編成 非常勤講師の配置(31人以上の学級)
	3・4年	40人学級編成 TT・少人数指導教員の配置(31人以上の学級)
	5・6年	36人学級編成 TT・少人数指導教員の配置(31人以上の学級)
中学校	1年	30人学級編成
	2・3年	32人学級編成

表のように、31人以上の学級に講師または教員を配置しており、学力向上に人的配置は欠かせないことを示している。中学校の学級編成も注目される。東京都は、今年から小学校1・2年生の35人学級に加えて中学校1年生も35人学級(学校の裁量で40人学級もある)とした。福井県と実施時期も内容も違いがあきらか



である。

福井県は、家庭・地域・学校の良好な「環境」と相互の「連携」が教育力を高めるとしている。そのために、行政はどのような支援ができるかが問われている。長岡市も福井県も、学校現場の実態をふまえた支援を重視していた。現場の悩みを受けとめ、人的配置の拡充、現場の教員と共に授業改善をしていくことが、学力向上の大きな力になるのではないか。

福井県は共働き率が56.8%(全国1位)、女性の就業率50.9%(全国2位)、三世代同居率17.5%(全国2位)などの状況を背景に、祖父母が孫の家庭学習をみることで、家庭での子どもの基本的な生活習慣や家庭学習の習慣が身につく環境が整っている。また地域が近所の子どもたちを見守るなど、子どもの安心・安全を支えていること、「地域・学校協議会」で地域も学校運営に参加している。

県なので、小中高を通じての観点からの学力向上の取組みであったが、ここでも長岡市と同様に0歳から18歳までの「福井型18年教育」が行われていた。

平成24年度から設置されている学力向上センターは建物ではなく、組織の名称だが、学識経験者など5名をアドバイザーとして教育委員会、行政部局、学校などで企画運営会議を開催し、学力向上の事業を決定していく。

具体的な学力向上の取組みについては、習熟度の差が大きい英語・数学について下位層の底上げを図るための少人数指導に加えて、小学校1,2年生では社会性を育むために生活支援員を配置し、小学校5,6年生から中学校3年生にかけチームティーチングで手厚い指導をしていることが印象的だった。人の配置は福井県でも重要視していた。

教師への研修・サポート事業としては平成22年からの「コア・ティーチャー養成事業」とインターネットを活用しての情報交換や相談などを行う「教育フォーラム」を行っている。

コア・ティーチャーは校内研究の中核となる先生だが、今の勉強が実生活にどう役立つのかに主眼をおいている。子どもたちに関心を向けさせる動機づけにつながる視点だと思う。このコア・ティーチャーを養成するための研修は、教師を集めてどこかの場所を設定してするのではなく、センターの指導主事が1校当たり年に10回訪問して行うものである。これだと教員は移動する時間をとられることもなく、実践の場での研修ができる。アウトリーチの姿勢は見習いたいものである。

教育フォーラムは、おそらくインターネット世代の若手教員には使いがっつきのよいものになりうると思う。教師個人個人の異なる悩みの解決になる身近な手段になるものとして、期待できると感じた。

\* 報告書の作成にあたっては、福井県提供の資料を参考にしました。